

公募シンポジウム2

化学物質のリスクアセスメント（健康障害防止）のステップアップに向けて ～実践事例を踏まえた成果と今後の課題

5月11日（木） 13：40～15：40 第9会場（研修室908）

座長：橋本 晴男（東京工業大学 大学マネジメントセンター）
村田 克（早稲田大学 理工学術院）

- KS2-1 国が進める対策と制度について
奥村 伸人（厚生労働省 労働基準局安全衛生部 化学物質対策課）
- KS2-2 素材産業におけるリスクアセスメントの実践事例と課題
藤間 俊彦（旭硝子株式会社 総務部 環境安全品質室）
- KS2-3 自動車製造業におけるリスクアセスメントの実践事例と課題
佐野千登志（本田技研工業株式会社）
- KS2-4 中小企業におけるリスクアセスメントの実践状況と課題
中家 隆博（関西環境科学株式会社）

座長の言葉

化学物質（通知対象640物質）のリスクアセスメントが義務化となり、2016年6月から施行された。この実施方法については、厚生労働省の指針や資料が示されており、各々の事業場ではその具体的な方法を検討し、実践が進んできている。法の施行からほぼ1年の節目となる現在、その進捗度は事業場による濃淡が予想されるものの、一定の経験や知見が得られつつある状況にある。

リスクアセスメント（健康障害防止）を効果的、効率的に進めるためにはいくつか重要な要素があると思われる。まずその手法（戦術）として、過去のデータや技術的経験から推定する方法、コントロール・バンディング、有害性やばく露の量を相対的に尺度化する方法、気中濃度を実測する方法、ばく露推定モデル等があるが、対象化学物質や作業に応じて、これら手法を適切に選択する「戦略」が重要である。また、リスクアセスメント実施のための組織を適切に事業場内に設定し、実践の中核となる担当者（厚生労働省の指針では「化学物質管理者」としている）を一般に定める必要がある。加えて、得られた結果を記録し「高リスク作業」などの重要な情報を事業場内で共有しフィードバック（水平展開）することで、事業場全体の継続的なレベルアップができる。更には、上記のような要素を、事業場の規模や業種に応じて適切に設定せねばならない。

そこで本シンポジウムでは、大企業および中小企業での実践事例として、リスクアセスメントの戦略、方法、組織や推進者、記録や情報の共有、実践上の問題点や課題、および成果としての高リスク事例やモデル対策事例などこれまで得られた経験を報告いただく。これを通して、効果的なリスクアセスメントのための一般的なポイントや、人員・経営資源が限られる中小事業場のための工夫やヒント等を考察し、わが国の実情に合ったリスクアセスメントを今後さらに成長、発展させていくための方策を議論する場としたい。

座長略歴

橋本 晴男（はしもと はるお）

【学歴】

1978年 東京大学理学部生物化学科卒
1986年 マサチューセッツ大学化学科大学院修了
2006年 ジョンスホプキンス大学公衆衛生学大学院修了（MPH）

【職歴】

1978-1990年 山陽国策パルプ（株）（現 日本製紙（株））
1990-2015年 東燃ゼネラル石油（株）（現 JX TG エネルギー（株））

【資格】

認定インダストリアルハイジニスト（米、CIH）
労働安全・衛生コンサルタント（化学、労働衛生工学）
【主な所属学会・役職】
産業衛生技術部会副部会長 他

座長略歴

村田 克（むらた まさる）

【学歴】

1989年3月 早稲田大学理工学部資源工学科 卒業
1994年3月 早稲田大学大学院理工学研究科資源及び材料工学専攻
博士後期課程 修了

【職歴】

1994年4月～9月 早稲田大学理工学部 助手

1994年10月～2010年3月 財団法人労働科学研究所
2010年4月～2016年3月 早稲田大学理工学術院総合研究所
2016年4月～ 早稲田大学創造理工学部環境資源工学科 准教授
【専門分野】 労働衛生工学

【資格】 工学（博士）、労働衛生コンサルタント（労働衛生工学）